

船舶事故等調査報告書

平成25年3月28日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2012那第26号
事故等種類	運航阻害
発生日時	平成24年3月23日 00時00分ごろ
発生場所	鹿児島県奄美市名瀬港内 名瀬港東防波堤灯台から真方位167°520m付近 (概位 北緯28°23.7′ 東経129°30.3′)
事故等調査の経過	平成24年5月31日、本インシデントの調査を担当する主管調査官（那覇事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報	
船種船名、総トン数	貨物船 海栄丸、199トン
船舶番号、船舶所有者等	135471、株式会社共進組、日東海運株式会社
乗組員等に関する情報	機関長、五級海技士（機関）
死傷者等	なし
損傷	主機過給機排気ガス入口ケーシングの冷却壁に破口
事故等の経過	本船は、船長及び機関長ほか2人が乗り組み、名瀬港で揚げ荷を終え、出港準備として主機のエアランニングを行い、平成24年3月23日00時00分ごろインジケータークックから出ている水を認めた。 船長は、その日の出港を延期し、機関長は、主機メーカー及び修理業者と原因を調査した結果、過給機排気ガス入口ケーシング壁面に破口を生じ、冷却清水が漏れ出したものと判明したが、主機の使用は可能と判断され、26日鹿児島県鹿児島市鹿児島港に向けて出港した。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南、風力 2、視界 良好
その他の事項	本船は、平成22年12月に中間検査を受検し、平成24年4月に定期検査を受検する予定となっていた。
分析	
乗組員等の関与	なし
船体・機関等の関与	あり
気象・海象の関与	なし
判明した事項の解析	本船は、名瀬港に停泊中、主機の過給機ケーシングの排気ガス流路入口側に破口を生じたことから、冷却清水が排気ガス管に流入し、排気弁を経由してシリンダ内に溜まり、主機の通常運転ができなくなって運航が阻害されたものと考えられる。 本船は、機関長が出港準備として主機のエアランニングを行ったところ、シリンダ内に溜まっていた冷却清水がインジケータークックから噴出したものと考えられる。

原因	本インシデントは、夜間、本船が、名瀬港に停泊中、主機の過給機ケーシングの排気ガス流路入口側に破口を生じたため、冷却清水が排気ガス管に流入し、排気弁を經由してシリンダ内に溜まり、主機の通常運転ができなくなったことにより発生したものと考えられる。
参考	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 <ul style="list-style-type: none">・ 過給機排気ガス出入口ケーシング壁面の肉厚を記録し、交換時期を逸しないこと。